

平成21年度建設部会活動報告

1 組織

1) 部会員の定義

部会員は、建設部門に合格した技術士会員及び準会員をもって構成する。

2) 建設部会の理念

「技術士会を支援する、されど頼らず」

2) 建設部会の目的

- ①専門技術の観点から技術士会に協力する。
- ②技術士の職業倫理の確立と地位向上を図る。
- ③部会員の技術の向上を図る。
- ④部会員相互の親睦を図る。
- ⑤専門技術を通し地域社会へ貢献する。

3) 建設部会役員

建設部会役員名簿

担当	氏名	所属	担当	氏名	所属
顧問	糠沢 宏二	(株)建設技術研究所	幹事	上田 修	(株)本間組
部会長	松田泰二郎	(株)岩手開発測量設計	幹事	遠藤 敏雄	(株)復建技術コンサルタント
副部会長	迎田 克介	鹿島建設(株)	幹事	黒沢 保	(株)建設技術研究所
副部会長	瀬尾 勝之	(株)秋元技術コンサルタント	幹事	斎藤 浩	(株)ユアテック
会計	阿部 忠正	(株)サトー技研	幹事	橋本 正志	(株)復建技術コンサルタント
会計	三浦 裕明	(株)ニュージェック	幹事	藤島 芳男	(株)復建技術コンサルタント
広報	相沢 巖	パシフィックコンサルタンツ(株)	幹事	皆方 忠雄	東日本高速道路(株)
広報	藤原 直樹	日本工営(株)	幹事	渡邊 豊彦	(株)テクノ長谷
ITS座長	芝山 正登	鹿島建設(株)	監事	佐藤 啓	(株)復建技術コンサルタント

順位不同

2 研修会

第1回研修会

開催日 平成21年5月22日(金)

テーマ 「技術者を活かす公共調達制度」

参加者 43名

講師 土木学会建設マネジメント委員会副委員長 佐橋 義仁氏 (株)建設技術研究所常務

概要

1) 従来の公共事業のマネジメント

従来までの特徴は次の通り。①税金のみを財源としている。②役人だけによる執行である。③役人が国民の信頼を得ている事を前提とした会計法である。④無謬性に基づき、何を作るか役所が決定しコストミニマムで調達する。⑤建設産業は「どんぶり勘定」で成り立つという宇宙工学博士の意見もあった。

2) 公共事業を取り巻く環境変化

①国際化の新しい潮流、②高齢化、地方分権推進、公共投資削減、説明責任、サステナブルな概念等の多様な変化が見られる。③入札方式等を工夫してきたが価格競争には限界がある。技術競争に向け「品確法」が制定された。

3) 今後の公共事業のマネジメント

①真の発注者は国民であることを認識すべきである。②今後は合意形成、説明責任を果たし、PPPの基本である情報を共有することである。③今後の公共事業は「計画論」ではなく「マネジメント論」に移行すべきである。

4) 発注者支援産業の育成

財政悪化の状況をいかに打開・解決して行くか大きな課題である。課題解決には次の選択肢がある。例えば、①発注者の代理人として活躍できるCMや、技術顧問制度、発注者支制度など、②PFI等による民間と行政の役割分担、③合意形成を構築するため、市民と行政の役割分担等のマネジメント論の開発・確立が望まれる。今後は、2者(甲乙)で解決できない問題を、3者(丙)という新プレイヤーで解決する甲乙丙の「三者構造」の考え方も検討に値する。

5) 結論

技術者を活かすには、「三者構造の導入」や「前払い金制度の廃止」等が一つの方向性との意見もあるが、下記の言葉が大切考える。

「科学的論拠と合意形成に基づく公共事業の推進が最も重要である」

第2回研修会

開催日 平成21年9月9日(水) 参加者 60名
テーマ 「橋梁長寿命化を進める上で必要なこと」
講師 東北大学大学院 准教授 久田 真氏

概要

「開発と建設」の時代から、今後は「持続可能な発展」が必要である。持続可能な発展には「維持管理技術の向上」が必要である。

1) 維持管理を取り巻く状況について

新潟中越地震、木曾川大橋、秋田本荘大橋、宮城岩手地震等を紹介した。

2) これまで目にしてきた構造物

東北地方にあるコンクリート構造物の劣化状況を紹介した。特に、海岸周辺の塩害によるコンクリート橋梁のひび割れ、鋼橋の腐食状況等を説明された。

3) マネジメントに関する方法論

構造物マネジメント技術には、①有限な資源と資産を有効活用する。②納税者への説明責任を果たす。③持続可能な社会を形成することである。基本的には、・危機管理型、・対症療法型、・適宜更新型等を適切に判断する。

4) 橋梁長寿命化を進める上で考えておくこと

橋梁の概況を把握し、長期的視点にたつて長寿命化修繕計画を立てる必要がある。今後の課題は①資産管理の合理化、②説明責任の向上、③性能規定とどう向き合うか、④機能的要素以外の歴史的文化的要素等への対応、⑤環境影響評価、環境会計、企業倫理等まだやることが沢山ある。

5) 資産保全の税制において維持管理費は経費、便益の向上は投資である。投資には割増の税金負担がある。今後、長寿命化推進の検討課題となる。

第3回研修会

開催日 平成21年9月29日(火) 技術情報部会共催
テーマ 「海外建設工事の基礎知識」 参加者 50名
講師 二宮技術士事務所 元(株)熊谷組 海外本部長 二宮孝夫氏

概要

①海外建設活動の現状と課題について、
②海外建設工事のプロジェクトマネジメント及び紛争に対する考え方

第4回研修会

開催日 平成21年 12月 4日(金) 参加者 26名
テーマ 「東京国際空港D滑走路建設外工事について」
講師 鹿島建設(株) JV事務所 副所長 照沼 敏之氏

概要

1) 概要: ①工期:平成22年8月、②発注方式:設計施工一括発注方式、③設計条件:耐久性100年間、④請負金:約6000億円、13社JV、10月開港
2)特徴:D滑走路は国内最大級の工事で多摩川に配慮して、埋立構造と栈橋構造を組み合わせている。耐久性100年には①鋼桁下面を覆い内部除湿管理(50%以下)で防錆、②電気防食、③耐海水性ステンレス等で対応する。

3 見学会

第1回見学会

開催日 平成21年 11月17日(火) 山形県技術士会共催
開催場所 「天地人」米沢地区現場見学会 参加者 27名

- 内容
- 1) 栗子トンネル工事: 東北中央自動車道 完成すると福島～米沢 L=約9000m
 - 2) 水窪ダム: 形式: 中心コア型ロックフィルダム、堤長: 205m、堤高: 62m、
 - 3) 直江兼統治水利水施設群: 土木学会の認定土木遺産

4 その他

- 1) 都市計画道路 北山トンネル見学会 5月28日 27名
- 2) 北海道新交通システム見学会 (ITS研究会) 8月23日 7名
- 3) 建設部会規約を改正し、施行日を平成22年5月19日に設定した。